

# 江戸川大学学生新聞

## THE EDOGAWA

VOL.6 #18  
2016年11月24日(木)

編集：学生記者クラブ  
江戸川大学企画総務課



## 江戸川大学 ガールズコレクション エドコレ Fashion and Music 2016 今年のテーマは「カワイイ × カッコイイ」

11月3日、江戸川大学の学園祭「駒木祭」で、通称エドコレ(江戸川大学ガールズコレクション)が行われた。駒木祭のメインイベントの1つで、社会学部経営社会学科の学生が中心となり運営している。第7回目となる今回は、ダンスとファッションを融合させた。1年生100人と経営社会演習実習のファッション・音楽ビジネスコースを受けている2年生23人計123人が参加した。(撮影：日高那侑・石井 蓮 取材：石井 蓮)

エドコレの運営は、2年生を中心に全体の統括を行うプロデューサー、ショーの照明、モデルやダンサーの動きなどに指示を出す演出・制作、モデルの衣装選びやメイクなどを担当するスタイリストなど合計6グループに分かれ、各自の仕事をを行う。学生たちは4月に演習実習が始まってから11月までの半年をかけて準備をしてきた。

11月2日は第二体育館でエドコレの舞台の設営が行われた。学生は朝から集まり、トラックで運ばれてきた大きな機材や用具を一つ一つ協力して運んでいく。荷物を運び終えると、次は翌日モデルが歩く17メートルのランウェイと、照明器具を取り付けるための檣だ。業者の人たちが組み立てるのを手伝う。そしてセットされた機材にファッションショーで使う照明のパターンの打ち込みや音楽の確認などを行い、すべて作業が終わったのは20時すぎだった。

翌3日、エドコレ本番。朝の10時頃からショーに向けてリハーサルが始まる。

モデルはどのように登場するのか、どこでポーズを決めるのか。今回の新企画であるダンスとのタイミングはどうするのか。入念な調整が行われる。

リハーサル中、プロデューサー代表2年生伊美陸さんは「ダンサーとモデルがリハーサルでしか合わせられない」と不安を口にす。リハーサルは13時直前に終了。外では11時半ごろから来場者の列ができていた。

13時の開場と共に会場の席が埋まっていく。今回の来場者数は1024人。スーツに身を包んだ学生に、緊張が見える。

13時30分。ショーは始まった。

モデルたちが「MICH I KO LONDON」や「WEGO」などのブランドの服をまといランウェイを歩く。その後で3人のダンサーたちがクールに踊る。今回のテーマである「カワイイ×カッコイイ」のカッコイイを表現する。2つのパフォーマンスがお互いを引き立たせ合う。

今回出演したモデルは女性17人男性2人で合計19名、服を提供してくれたブランドは7社9ブランド。すべて学生が交渉をした。「今回は新しくダンスを取り入れて、昨年までとは違う」と演出・制作代表の平川勇気さん。学生たちが作り上げたショーに観客たちは身を乗り出していた。

ファッションショーの後には、河北麻友子さんによるトークショー。XOX(キスハグキス)のダンスライブもあった。会場が最初から最後まで盛り上がり続けた1時間半だった。

終了後、プロデューサーの加藤達郎さんは、「すべてがうまくいった。お客さんも盛り上がり続けた。成功です」と喜ぶ。

1年生も「完成度の高いショーだった」「自分たちの役割をしっかりとできた」と満足気だ。また「来年が楽しみ」とすでに次へ意欲を見せていた。

第一回からエドコレの指導を担当する古川史郎さんは「いい表情で終わりましたね」と嬉しかった。大きな舞台を経て一回り成長した表情だ。